男子サッカー部
大教スポーツ

1部リーグ昇格

後輩のため、「使命は果たせた」

攻守の要、田中脩史選手、河原陽選手、松浦祐樹選手に独占インタビュー！

第93回関西学生サッカー2部リーグにおいて、男子サッカー部は11勝4敗3分という結果を残し、2年ぶりとなる1部リーグ昇格を果たした。負ければ他大学の結果如何で入れ替え戦行きという状況の中、リーグ最終節となる11／21(土)の神戸大学戦を2対1で競り勝ち、自力での昇格を決めた。

田中主将歓喜の胴上げ

同点に追いつかれ「正直焦った」

試合は前半開始1分に、相手DFのこぼれ球を堀江修平選手（スポーツ4回生）がミドルシュートし、先制点を獲得するも、後半開始3分にゴール前混戦から押し込まれ、同点に追いつかれてしまう。「後半立ちあがりの失点が今年度の課題で、直近の試合も同様のミスを犯すもその後逆転勝ちを収めた。皆そのイメージが残っていたので焦りはなかった」とGKの松浦祐樹選手（スポーツ4回生）は当時を振り返るも、DFの田中脩史主将（スポーツ4回生）は、「正直焦った」と本音をポツリ。それでも、「とにかくこのあとを抑えれば、また点が取れると思った」と攻撃陣への信頼を垣間見せた。

点を取るのはオレだ！

次の点を取るのはオレだ、と内心闘志を燃やす男がいた。チームきってのムードメーカー、河原陽選手（スポーツ4回生）だ。後半22分、見せ場はやってきた。MFの久瀬恭平選手（スポーツ3回生）のアーリークロスにダイビングヘッドを決め、ゴールネットを揺らして、これが決勝点となった。「決めた瞬間は『ほらな』という感じだった」。また、「ラストパスを出した久瀬とは高校も一緒で、彼ならここにパスをくれるだろうと信じていた」と白い歯がこぼれた。逆転後は、「試合を通して取りこぼしが多々あったので、攻撃の手を緩めるなとガンガン周りに檄を飛ばして緊張感を保ち続けた（松浦選手）」とチームの引き締めを忘れなかった。

使命は果たせた

3回目の笛が鳴ると同時に、悲願の昇格も決まった。瞬間、安堵感に包まれたという。河原選手は「もともと、1部リーグ昇格と2部リーグ優勝を目標に掲げていたが、優勝が絶望的に。それでも、なんとか昇格だけでも成し遂げて次の代に引き継ぎたい思いがあり、決めた瞬間は喜びよりも安堵感のほうが大きかった」と振り返る。田中主将は「昇格が絶対条件という中で勝てない時期も多く、苦しかった分、使命は果たせてよかった」と胸中を語った。

全員で勝ち取った昇格

昇格を果たせた要因に、田中主将は〈守備力の高さ〉を挙げた。今リーグ戦18試合中失点数は19点と、リーグ最少失点を誇ったが、その一番の理由は田中主将のコンバートによる部分が大きかったようだ。松浦選手は「コンバート後は明らかに失点が減った。核となる選手がセンターにいることが重要で、主将自らリスクを負ってピッチに立つことで周りも変わっていった」と分析した。また、田中主将は「試合に出ていない4回生が気持ちを切らさずについてきてくれて、彼らのためにも勝たないわけにはいかなかった」と語り、同部のスローガン「チーム和一ク」の根付きを感じさせた。

全員守備で生き残れ

チームを支えた3人が卒業し、来季は新チームで1部リーグに乗り込むことから、攻撃力、守備力ともに、さらなるレベルアップが要求される。1部リーグを戦い抜くために、田中主将は「全員守備」をキーワードに挙げた。「1部リーグのチームは守備が強固で、失点すると逆転は厳しくなるので、いかに失点しないかが大事になってくる」と前回1部リーグでプレーした自身の経験を踏まえて語った。また、後輩に向けて「信頼し合える関係がうちの持ち味。それが来年も続いていけば良い戦いができると思う。1部リーグに残り続けて、さらに上をめざしてほしい」とエールを送った。河原選手は「監督の口癖〝荷物が重たいんやない、力が足りんだけや〟という言葉を贈りたい。大変なこともあるが、言い訳はせず努力をやめないで」と熱い思いを語った。松浦選手は「試合に出られない選手、出る機会の少ない選手がどれだけチームのために動けるかにかかっている。レギュラーも良い刺激になるので、一丸となって頑張ってほしい」とチームの成長を願った。

4回生を中心に勝ち取った1部リーグの檜舞台。その思いを汲む新チームの活躍に目が離せない1年になりそうだ。

写真左から河原選手、田中選手、松浦選手

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
大教スポーツ
平成28年3月16日(水) 4号
発 行 大阪教育大学体育会
編集長 太田順康(保健体育教育講座教授)
編集員 信川恵美(L.S.B)/葛城諒太(男子ラクロス)/長田佳樹(合氣道)/佐伯結衣(合氣道)/乾祐郁(L.S.B)/木下加珠美(モダンダンス)/辰己陽輝(バドミントン)/五十嵐馨(剣道)/小島里咲(フォークダンス)/松岡里佳(陸上競技)/加藤舞(硬式テニス)/砂場優里子(陸上競技)

2面 平成27年度下半期体育会 主な成績・活動一覧
3面 平成27年度体育会学長杯受賞者・団体一覧
平成28年度上半期 試合・行事日程一覧
4・5面 DAIKYO PRESS 特別寄稿! 第二弾
水上競技部/アメリカンフットボール部/女子ハンドボール部/ストリートダンスサークルL.S.B.
6面 ホットニュース/我が体育会〜現役生に贈る言葉〜/編集後記

平成27年度下半期 主な成績・活動一覧

剣道部女子関西女子大会 団体優勝

第39回関西女子剣道優勝大会（9月27日於大阪市立中央体育館）で、本学女子剣道部が5年ぶりの団体戦優勝を果たした。

立命館大学との決勝戦は、スコア3対0の圧勝であったが、女子主将の松尾知里選手（スポーツ4回生）は、優勝までの道のりは決して楽なものではなかったと話す。チームの主力だった昨年の4回生が卒業し、新体制で臨んだ練習試合や府大会では、なかなか結果が出ず苦しんだ。それでも諦めず、今大会での頂点を目標に置き、厳しい練習に取り組んだ。

その努力が実を結び、今大会では〝目の前の一試合一試合を大切に〟を合言葉に、初戦から安定した試合運びで駒を進めていく。準決勝の大阪体育大戦では、次鋒の高瀬美咲選手（スポーツ3回生）が奪った一本をチーム全員で守り抜き、僅差で勝利した。部員全員の気持ちがひとつにまとまった瞬間だった。

松尾主将は、「この優勝はレギュラーの7人だけのものではなく、剣道部のすべての部員の力によるもの。また、顧問の太田先生をはじめ、OB・OGの方々、遠方から応援に来られる保護者の応援が励みになった」と喜びを語った。後輩たちに向けては、「苦しい時、つらい時も多いが、面を外したら和気あいあいとなる、このメリハリが大教カラーであり、魅力でもある。春からは新チームに代わるが、良い雰囲気を保ちつつも、全員がレギュラーをつかみ取る気持ちで頑張ってほしい」と思いを託した。

女子ハンドボール部 全日本インカレ3位入賞

高松宮記念杯平成27年度全日本学生ハンドボール選手権大会（通称全日本インカレ）が、11月7日（土）から11日（水）まで函館アリーナで開催され、女子ハンドボール部が3位入賞に輝いた。

全国から32チームが集い、西日本第2シードで出場した同部は、1回戦で国士舘大学を22対19、2回戦で東海大学を35対25、準々決勝で日本体育大学を22対21で下し、全国の強豪校相手に快進撃を見せた。準決勝では関東1位チームの東京女子体育大学に20対21で惜敗したが、堂々の3位入賞を果たし、スポーツ専攻4回生の堀川真奈さんが優秀選手賞に選ばれた。

主将の笠原有紗選手（スポーツ専攻4回生）は、「1点差で負けたことはすごく悔しかったけれど、自分たちなりの力は出し切れたので完全燃焼できた」と清々しい笑顔を見せた。笠原主将はチームの魅力を「学年の壁がなく、1回生から4回生まですべての選手がコートに立つチャンスを与えられていて、試合の判断も選手主体で動けるところ」と評する。そんな伝統のチームカラーを引き継ぐ後輩たちに向けては、「自分たちで考えて試合を動かすという点は、他の大学にはない大教大ならではの特色。それを活かせるよう、技術はもちろん学年を超えた仲の良さをチームワークにつなげ、応援してくれる人々への感謝の気持ちを忘れずにプレーしてほしい」とエールを送った。

部名	大会名	成績
男子バスケットボール部	第53回近畿地区国立大学体育大会	優勝
女子バスケットボール部	第53回近畿地区国立大学体育大会	準優勝
男子バレーボール部	関西学生バレーボール秋季2部リーグ	5勝2敗0分 3位
女子バレーボール部	関西学生バレーボール秋季4部リーグ	6勝1敗0分 2位
男子ハンドボール部	関西学生ハンドボール秋季3部リーグ	4勝2敗0分 3位
女子ハンドボール部	高松宮記念杯第51回全日本学生選手権	3位／堀川真奈(スポーツ4回生)優秀選手賞
ラグビー部	関西大学Bリーグ	6勝3敗0分 4位
アメリカンフットボール部	秋季関西学生アメリカンフットボールリーグDIV.2	4勝1敗0分 2位
硬式野球部	平成27年度近畿学生野球連盟秋季1部リーグ	1勝10敗0分 6位→2部に降格
準硬式野球部	阪神六大学秋季リーグ	6勝6敗0分 4位
男子サッカー部	関西学生サッカー2部リーグ	11勝4敗3分 2部Aリーグ準優勝→1部昇格
女子サッカー部	第53回近畿地区国立大学体育大会	優勝
硬式庭球部	第53回近畿地区国立大学体育大会	男子 4位／女子 優勝
	関西学生地域テニストーナメント	田中千愛(スポーツ2回生)シングルス優勝／清水梨沙(スポーツ1回生)ダブルス優勝
ソフトテニス部	第53回近畿地区国立大学体育大会	男子 優勝
卓球部	平成27年度秋季関西学生卓球リーグ	男子3部リーグA 3勝2敗0分 3位／女子3部リーグB 1勝4敗0分 5位
剣道部	大阪学生剣道優勝大会	男子団体 3位／女子団体 優勝
	第39回関西女子学生剣道優勝大会	団体 優勝
柔道部	第53回近畿地区国立大学体育大会	男子団体 優勝／個人 由留木俊之(スポーツ3回生)優勝
合氣道部	特になし	
空手道部	第58回全関西大学空手道選手権大会	準優勝→1部昇格
体操競技部	第53回近畿地区国立大学体育大会	南野陽太(保健体育3回生)1位
	平成27年度五大戦	福本遼吾(社会科教育3回生)1位
陸上競技部	秩父宮賜杯第68回西日本学生陸上競技対校選手権大会	伊佐嘉矩(大学院保健体育1回生)十種競技2位
	天皇賜杯第84回日本学生陸上競技対校大会	岩下美桜(スポーツ2回生)走高跳3位
バドミントン部	関西学生バトミントン秋季リーグ	男子 3部リーグ3位／女子 3部リーグ5位
水上競技部	第91回日本学生選手権水泳競技大会	小林奈央(スポーツ4回生)100m・200mバタフライ優勝
スキー部	特になし	
民族舞踊部	特になし	
モダンダンス部	第12回京都学生祭典	ノンジャンル部門 3位
男子ラクロス部	関西学生ラクロス1部リーグ	0勝7敗0分 8位→2部降格
女子ラクロス部	関西学生ラクロス2部リーグ	5勝2敗0分 Aブロック2位
弓道部	特になし	
L.S.B.	特になし	
山岳部	特になし	

平成27年度体育会学長杯受賞者・団体一覧

タイトル	受賞者・団体	主な受賞理由
学長杯	女子ハンドボール部	第51回全日本学生ハンドボール選手権、3位入賞
		第45回西日本学生ハンドボール選手権、準優勝
学長杯個人賞	小林奈央(水上競技部)	第91回日本学生選手権100m・200mバタフライ、優勝
	堀川真奈 (女子ハンドボール部)	第12回女子ジュニアアジア選手権大会・第2回U-22東アジア選手権、日本代表
		第51回全日本学生ハンドボール選手権、優秀選手賞
	田中脩史 (男子サッカー部)	2014年・2015年関西学生選抜、選出
		2016年度より、「アルビレックス新潟シンガポール」に入団決定
殊勲賞	剣道部	第39回関西女子学生剣道優勝大会、優勝
	藤田拓矢、三原雅司、広瀬達也、 藤田慎也(陸上競技部)	第92回関西学生陸上競技対校選手権大会、4×400mリレー優勝
敢闘賞	陸上競技部	関西学生陸上競技対校選手権大会において、国公立大学で唯一の1部残留
	男子サッカー部	関西学生リーグ、1部昇格
	ソフトテニス部	関西学生ソフトテニスリーグ春季5部から、秋季4部1位へと、飛躍的な成績の向上があった
	山本千尋(剣道部)	全日本学生剣道選手権大会、団体2位、 全日本選手権出場など、4年間にわたり素晴らしい成績を収めた
体育会会長杯	坊佳紀(柔道部)	2年連続主将としてチームを牽引し、第65回関西学生柔道優勝大会、2部優勝
	山下由布子 (ソフトテニス部)	全国教育系大学ソフトテニス大会、3位入賞など、 4年間にわたり素晴らしい成績を収めた
体育会顧問奨励賞	安倍瑞基 (男子バスケットボール部)	最優秀選手賞など、4年間にわたり数多くのタイトルを獲得した
	空手道部	1部昇格を果たし、今年度特に大きく成長した
	体育会広報部	「大教スポーツ」編集などの広報活動により、体育会の更なる向上に努めた
体育会特別賞	該当なし	該当なし

平成28年度 上半期 試合・行事日程一覧

体育会入会希望の方は、体育会公式ウェブページをご覧ください。
→http://jikarada.ict.osaka-kyoiku.ac.jp/~taiikukai/

部活名	日程	予定	会場
男子バスケットボール部	3月7日～11日	第54回全国教育系11大学バスケットボール競技大会	
女子バスケットボール部	4月16日、17日	全関西女子バスケットボール選手権	
男子バレーボール部	4月17日～	関西学生バレーボール春季2部リーグ	
女子バレーボール部	4月17日～	関西学生バレーボール春季4部リーグ	
男子ハンドボール部	4月3日～5月7日	関西学生ハンドボール春季3部リーグ	
女子ハンドボール部	4月3日～5月8日	関西学生ハンドボール春季1部リーグ	
ラグビー部	5月	第53回近畿地区国立大学体育大会	
アメリカンフットボール部	5月7日	西日本学生大会	
硬式野球部	4月5日～	平成28年度近畿学生野球連盟春季2部リーグ	
準硬式野球部	4月	阪神六大学リーグ　春季リーグ	
男子サッカー部	4月4日～9月13日	関西学生サッカー1部リーグ(前期)	
女子サッカー部	5月～6月	関西学生女子サッカー春季2部リーグ	
硬式庭球部	5月	関西学生春季テニストーナメント	
ソフトテニス部	4月9日、10日	大阪学生ソフトテニス大学チーム対校大会	
卓球部	3月5～6日	第13回関西学連交流学級大会	

部活名	日程	予定	会場
剣道部	5月15日	関西学生剣道選手権大会	
柔道部	5月	関西学生柔道優勝大会	
合氣道部	特になし		
空手道部	4月	関西学生空手道個人選手権大会	
体操競技部	4月23日、24日	関西学生体操選手権大会	
陸上競技部	5月	第93回関西学生陸上競技対校選手権大会	
バドミントン部	4月13日、14日、19日、20日	大阪学生バドミントン選手権大会	
水上競技部	4月4日～10日	日本選手権水泳競技大会	
スキー部	2月28日、3月1日	第89回全日本スキー選手権大会　男子3部	
民族舞踊部	特になし		
モダンダンス部	5月14日、15日	五月祭ダンスショー	
男子ラクロス部	特になし		
女子ラクロス部	特になし		
弓道部	5月	大阪市長杯	
L.S.B.	5月14日、15日	五月祭ダンスショー	
山岳部	特になし		

DAIKYO PRESS 特別寄稿！第二弾

わたしたちDAIKYO PRESSは、広報誌の作成などを通して、学生の活躍を学内外に発信する学生広報組織です。「大教生が作る、学生のための広報誌」をモットーに、年に数回学生広報誌『DAIKYO PRESS』を発行しています。

前回に引き続き、DAIKYO PRESSが注目する体育会の団体をピックアップ！アメリカンフットボール部、水上競技部、女子バレーボール部、L.S.B.の4団体を取材しました。

DAIKYO PRESSへの取材依頼はこちらまで気軽にご連絡ください♪
E-mail
dkpress@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

水上競技部

各自が黙々と泳ぎ、緊張感あふれる練習風景

寺田選手(左)と吉川貴輝選手。練習中の雰囲気とは一変し、インタビュー中は和気あいあいとした雰囲気で、部員同士の仲の良さを感じます。

部長 寺田 直史(てらだ なおふみ)選手
(スポーツ3回生)

副部長 吉川 貴輝(きっかわ たかき)選手
(スポーツ3回生)

現在選手17人、マネージャー2人の計19人で活動している水上競技部を取材！練習風景と昨年8月に開催された近畿地区国立大学体育大会での試合風景に密着し、部を牽引する部長の寺田選手、副部長の吉川選手にインタビューしました。

――部活動全体で意識していることはありますか?

寺田 部員皆のやる気を出すために、練習では声出しを頑張ろうと意識しています。

――選手から見た生田泰志監督(スポーツ講座教授)はどんな方ですか?

寺田 いろいろなアドバイスをくれて、ありがたい存在です。特に、「〝じりつ〟という言葉には〝自立〟と〝自律〟の二つの意味がある。それを意識して取り組むように」と話されていたのが印象的です。

吉川 『自立』は、誰かに依存せず独りで行動すること、そして『自律』は、自分自身で立てた規律に従って行動することを指します。監督の言葉を胸に、選手それぞれが、自身で考え、判断するように心がけています。

寺田 気さくでもありますし真面目でもあり、メリハリのある方ですね。

――水泳部のブログは頻繁に更新されていますよね。

寺田 ブログの更新は、今だと1回生の中で担当を決めて更新しています。基本的に2、3日に一回の更新で、なるべく間隔をあけないようにしています。OBやOGの方が試合の記事などに反応してくれることもあります。

吉川 「見に行けなくてごめんね」「応援しているから頑張れ」など、心のこもったコメントをもらうこともあり、部員の励みになっています。

――今後の目標を教えてください。

寺田 チームとしては、7月の関西学生選手権で1部残留すること、そして8月の全国国公立大学選手権でシード権を死守し、3位以内に入賞することです。ぼく個人としては、9月に行われる日本学生選手権で表彰台に上がることです。

吉川 ぼくも、関西学生選手権で表彰台に上がって、寺田くんとW受賞したいですね。

アメリカンフットボール部

練習の成果が実を結び、試合で息の合ったプレーを見せるDRAGONS。

兼田 匠(かね たくみ)選手
(社会科教育4回生)
ポジション:ライン

強豪ひしめく関西学生アメリカンフットボールリーグで奮闘する、本学アメリカンフットボール部「DRAGONS」。選手約40人の中で、縁の下の力持ちとしてチームを支える兼田選手に、DRAGONSとの出会いやその魅力を聞きました。

――アメフト部との出会いは?

兼田 出会いは中学生の頃に流行った、アメフトを題材にした漫画で、危なそうなスポーツだなあという印象でした。大学では硬式野球部に入ろうと思っていたのですが、DRAGONSの勧誘にあって練習に誘われ、そこで見た選手たちの真剣な姿に惹かれて、危ないスポーツから魅力的なスポーツに印象が変わりました。

――アメフトの魅力は何ですか?

兼田 メンバーそれぞれに重要な役割があり、全員がその役割を果たすと勝利につながるところです。また、試合中に多くの作戦が組まれるため、頭の回転の速さが求められるスポーツでもあります。DRAGONSの魅力は、ONの時は全員が本気で取り組み、OFFの時は本気で遊ぶ、ONとOFFの切り替えがはっきりしているところ。ただ、OFFの場合でも、プレーのことを考えてしまう程、アメフトに対する気持ちは強いです。

――兼田選手のポジション〝ライン〟の魅力は?

兼田 ラインは、攻撃を阻む相手チームを押さえ込んで壁を作り、ボールが前進するように道を開く役割で、一言で言えば「縁の下の力持ち」です。練習も激しいぶつかり合いが中心で、ボールをさわることがないので派手さはありませんが、ラインが支えるからこそ、オフェンスが輝くことができるのです。試合では、多くの人がボールを持って駆け抜けるオフェンスの選手を目で追いがちですが、ラインもアツい。体格の大きい選手同士がタックルし合ったり、投げ倒したりと、激しい戦いが繰り広げられているので、ぜひ注目してください！

――今後の目標は?

兼田 学生生活ももうすぐ終わり、今年の春からは社会人になりますが、今後もOBとしてDRAGONSに関わり、支え続けていきたいです。

女子バレーボール部

日々練習に精を出し、少人数で目標に向かって進み続ける女子バレーボール部に密着取材し、チームの魅力を徹底解剖しました!

2015年度 主将 上西(うえにし) 里奈(りな)選手
(保健体育4回生)

――女子バレーボール部の雰囲気はどうですか?

上西　部員は8人で、マネージャーがいない中、全員で主務の仕事を賄っています。他大学に比べて部員が少なく、3分の1がバレーボール未経験者ですが、その分アットホームな雰囲気です。全員がチームの柱としてしっかりしないといけない、一人も欠けてはいけないという気持ちもチームの強みになっていると思います。

――女子バレーボール部ならではの特色やアピールポイントはありますか?

上西　今年は明るく、主体性のあるチームをめざしているので、顧問の吉田雅行先生に指導を受けながらも、自分たちで試合展開を組み立てて、判断することを大事に考えています。どんな時に、どんな声かけをしたらいいのかを、試合中だけでなく練習中も考えるように意識しています。

――上西さんが思うバレーの楽しさ、難しさは何ですか?

上西　セッターをしているので、チームの司令塔として全員に声をかけ合い、ボールをつなげるために、臨機応変に戦略を組み立てなければいけないところが難しいです。どの選手にボールをつなぐかも、セッターが一瞬で判断します。だからこそ、自分のあげたトスからアタックが決まると嬉しいですね。

――吉田先生からの言葉で印象に残っているものは?

上西　「やることをやりなさい」という言葉です。試合の中で練習してきたことを思い出して、プレーにしっかり活かそうということです。メンバーが試合で冷静さを失っている時によく言われますね。8月に実施された、第53回近畿地区国立大学体育大会も、「試合に勝ちたい!」という気持ちが強すぎて感情に流されてしまい、普段練習したことを発揮できず、初戦敗退という結果になってしまいました。今後は、大会での悔しさと先生の言葉を教訓に、試合の雰囲気や感情に影響されず、今まで練習してきたことを信じて、結果を残せるように頑張りたいです。

一人ひとりの試合に対する集中力がチームプレーと結びつき、ボールがつながります。

キャンパスの学園祭から外部ライブハウスのイベントまで、様々なステージでキレキレのダンスを披露する、ストリートダンスサークルL.S.B.。中でも、空き時間に歌と踊りで皆を和ませるムードメーカーのモアイさんにその魅力を伺いました。

L.S.B.

――L.S.B.の特徴は何ですか?

モアイ(以下、モ)　何よりも「人とのつながり」が強いことです。現役生だけで113人ものメンバーがいて、サークル内同期との横のつながりはもちろん、先輩や後輩、卒業生との縦のつながりがとても充実しています。初舞台の時は、先輩が緊張をほぐしてくれたおかげで楽しく踊れましたし、ほかの部員からも「先輩愛」がよく伝わってきます。卒業生の方々も、イベントにはいつも駆けつけてくれ、練習のない日は、一緒にご飯を食べたり、時には旅行にも出かけたり。こうした、横と縦のつながりによる結束力が、ダンスのパフォーマンスに発揮されています。

――これまでで一番楽しかったイベントは何ですか?

モ　8月の合宿です。ダンスの練習が主体の「内合宿」と、部員全員で遠出して親睦を深める「外合宿」の2つがあって、外合宿では海に出かけて、砂浜でドッジボールをしたり、ビーチフラッグをしたりして結びつきを強めます。普段の練習では見られない仲間の姿が見られて、とても盛り上がります。

――今後の目標を教えてください。

モ　もっとうまく踊りたい。外部のイベントに出演して、さまざまなジャンルのダンスにふれると特にそう思います。それとL.S.B.は大所帯なので、考えや方向性はそれぞれ違いますが、全員にとって居心地の良い、楽しい空間づくりをめざしています。また、活動に関わるすべての人に感謝の気持ちを持ち続けたいです。

――ファン、先輩、そして新入生に、それぞれ一言お願いします。

モ　観に来てくれる皆さん、いつもイベントで声援を送ってくれてありがとうございます。次の大きなイベントは五月祭ですが、新入生を対象とした4月のサークルフェスティバルにも参加しますので、ぜひ観に来て下さい。

先輩方、普段は中々言えませんが、先輩の支えがあるからこそL.S.B.は成り立っています。これからもともに盛り上げていきましょう!

そして新入生の皆さん!L.S.B.は、実はダンス初心者が多いのです。ぜひ、一緒にダンスを覚えてみませんか?いつでもお待ちしています。

弘元(ひろもと) 典(つかさ)さん
(教育科学2回生)　ダンスネーム:モアイ

L.S.B. 主催ライブハウスイベントの一場面

ホットニュース バドミントン部小学生クラブのボランティアコーチとして奮闘中

バドミントン部が、小学生クラブでボランティアコーチとしての活動を開始して、今年で3年目を迎える。現在、松谷浩樹選手（自然研究4回生）、森偉康選手（数理4回生）、橋本共平選手（文化研究3回生）の3人が、八尾市立曙川小学校の児童から成るクラブ「曙川スマッシュ」で毎週水曜日と木曜日の2回、約20人の子どもたちに、身体を動かす楽しさを教えている。

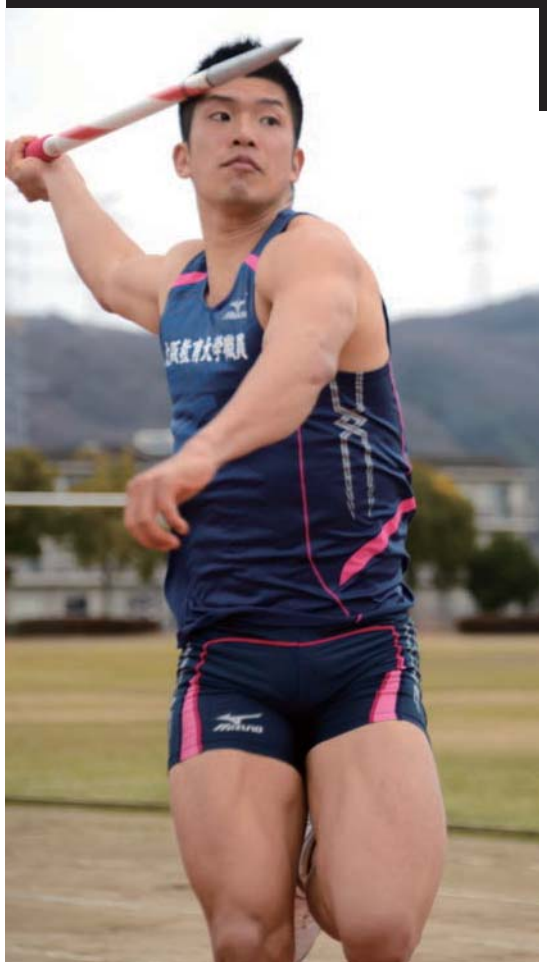
1回生から参加している橋本選手は、「プレーするときとは違った見方ができるし、子どもたちは、うれしい時は全身で喜びを表現し、悔しい時は顔をくしゃくしゃにして大泣きするなど、とても感情豊か。技術だけでなく、心も成長するような指導を心がけている」とやりがいを語る。また、教員志望であることから、「話し方や身振り手振りなど、どうすればわかりやすく伝わるかを日ごろから考えている。自分の成長にもつながり、とても勉強になる」と指導が自身の糧ともなっているようだ。

今後の活動について女子主将の山本琴美選手（人間科学3回生）は、「マイナースポーツなので、子どもたちが小さいころからバドミントンに親しむことで、競技のすそ野が広がればうれしい。大学主催の地域住民向けスポーツ交流会にも、毎年子どもから大人までたくさんの方が参加してくれるので、今後も競技の定着と発展に貢献していきたい」と抱負を語った。

子どもたちにアドバイスする橋本選手

現役生に贈る言葉 田原やり投げ選手紘樹さん 我が体育会 第4回

温故知新をテーマに、本学体育会とゆかりのある人にインタビューするこの企画。第4回は、仕事と競技の二足の草鞋を履く陸上競技部OBを紹介します！



2014年大阪教育大学大学院修了。在学時は陸上競技部（やり投げ）に所属し、平成25年度日本学生個人選手権で準優勝に輝く。大学院卒業後は同大職員として勤務しながら競技を続ける。2015年開催の第59回関西実業団陸上競技選手権大会では3位入賞、同年の第63回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会では15位の成績を収める。2016年4月から京都大学職員。

――2015年を振り返っていかがでしたか？

今シーズンは5月の関西実業団大会で肘の靱帯を痛めたこともあり、競技生活初の長期離脱を余儀なくされ、ほとんどの試合を欠場する結果となりました。まだまだ自分の身体を理解できていない証拠ですね。悔しい1年になりましたが、その分自分の身体をじっくり見つめ直す良いきっかけになりました。

――やり投げを始めたきっかけは？

短距離走が得意で、己の実力を試すために京都の洛南高校に進学しましたが、歯が立ちませんでした。そんなとき、顧問の先生の「お前は体幹が強いからやり投げなんかどうだ」の言葉につられて軽い気持ちで投げてみたところ、大きな放物線が描かれ、「おっ!?」とうなりました。あの感覚は今でも脳裏に焼き付いています。運動神経抜群な人でもまっすぐな軌道で投げるのは難しいんですよ。単純に見えて奥が深く、いつの間にかのめりこんでいました。

――大学時代の思い出を教えてください。

スポーツ専攻は各競技のエリート選手が集うので、いろんな競技の選手と話をしたり、一緒に練習したりすることで、新しい視点を取り入れられ、視界が開けました。ボールを蹴るときの軸足の踏ん張り、器械体操での身体の操り、ハンドボールであれば手先の動きなど、やり投げにつながるヒントがたくさんあり、貪欲に吸収していましたね。体格で劣る分を克服できたのは、様々な競技の友人から学んだもののおかげだと思います。大学時代の仲間は、今でも現役で活躍している選手が多く、刺激になっていますね！

――今後の目標は？

日の丸を背負って世界大会に出場すること、これは人生の目標でもあります。実は、大学時代、やり投げのレベルアップにつながればと始めたボブスレーで日本代表に選ばれ、世界大会にも出場しました。会場の雰囲気、海外選手の体格や身体能力、すべてに圧倒されましたが、いつかやり投げでもこんな檜舞台に立ちたいと強く思いました。この身一つでどこまで高みに行けるのか、世界最高峰の大会で己の限界に挑戦したいです！

――読者にメッセージを。

自分を高めるためのヒントは日常のあらゆるところに転がっています。これはスポーツだけではなく、どんなことにも当てはまります。ただ、転がっているのは、あくまでもヒントであって、答えではありません。常にアンテナを張り巡らせ、柔軟な発想を持って、自分を高めていってください！

在学時代の田原さん

編集後記

皆さんはじめまして、今号から本紙における編集のとりまとめを担当しています。

今号の1面記事は、男子サッカー部の1部リーグ昇格です。この話題は学内でも広く知られていて、注目していた学生もかなり多いと思います。

2面の剣道部女子、女子ハンドボール部の快挙も甲乙つけがたかったのですが、今回はサッカー部に軍配を上げました。しかし、それぞれの記事の文字に、先輩から後輩への引き継ぐ思いがあふれていて、いつの時代のどの部活でも、それはきっと変わらない共通の思いなのでしょう。

毎号さまざまな団体が素晴らしい成績を残しているので、在学生の方は、「頑張らなければ」、卒業生の方は「頑張れ！」という心境になっているのではないでしょうか。行動の起爆剤として、この大教スポーツが役立つと幸いです。次号も各団体の活躍を期待しています。

体育会広報副部長
信川 恵美(モダンダンス部)